

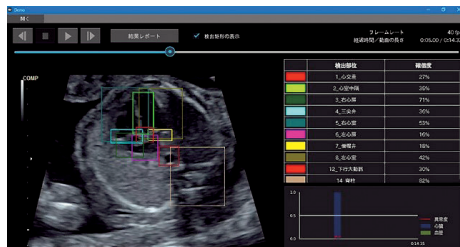
当社グループでは、「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現に向け、先端技術の研究開発に取り組んでいます。当期における研究開発費の総額は1,349億円となりました。

研究成果の事例 AIを用いた胎児心臓超音波スクリーニング[※]



様々な分野で活用が期待されているAI技術。特に医療分野では医用画像の診断を支援する画像診断支援システムの実用化に向けた動きが進んでいます。富士通は、新生児死亡の大きな要因となる先天性心疾患について、理化学研究所、昭和大学および国立がん研究センターと連携し、胎児期での早期診断を目指した取り組みを進めています。

先天性心疾患の治療には、胎児期の早期診断が重要です。しかし、大人と異なり、胎児の心臓の超音波検査には高度な技術が必要とされ、検査者間で技術力に大きな差があることが課題でした。そこで今回、共同研究グループは、超音波画像に映る心臓部位の位置・分類を高い性能で判別できるAI技術「物体検知技術」を活用し、胎児の心臓構造の異常をリアルタイムに自動検知する技術を開発しました。



図：今回開発した、胎児心臓超音波スクリーニング

今回開発した技術を用いることによって、先天性心疾患の診断率が向上すれば、検査者間の技術格差や地域間の医療格差を埋めることとなり、医療の発展に貢献することが出来ます。富士通は、デジタル技術とノウハウを持つ方々との共創を通じて、人々の生活が豊かになる未来を実現していきます。

上記の他研究開発の状況、最新のトピックスに関しましては、当社および富士通研究所のWEBサイト (<https://www.fujitsu.com/jp/group/labs/>) ならびにFUJITSU JOURNAL (<https://journal.jp.fujitsu.com/>) をご覧ください。

※バーコード読み取り機能付の携帯電話またはスマートフォンを利用して、上のQRコードを読み取り、FUJITSU JOURNALにアクセスし、該当案件の詳細をご参照いただけます。